

政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

評価項目	評価
施策01 地域福祉の充実	概ね適切

【参照：資料 - 16】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【施策の環境変化】 平成22年度国勢調査では、江別市においても人口が減少する結果となった。少子高齢化が顕在化し、単身世帯が増加の傾向にある。平成22年度は第2期江別市地域福祉計画及び第2期地域福祉実践計画の初年度として、地域活動の基盤づくりを市民自らが考え、行政等と一体となって「みんなで支えあうまちぐるみの福祉づくり」を進める施策を展開するものである。</p>	<p>環境変化の「地域活動の基盤」、課題の「社会基盤の整備」の両方とも何を指しているのか読み取れない。</p>	<p>ここでは、ボランティアなどが活動しやすい環境を整える制度や事業を指しているのだが、「社会基盤」というと一般的には道路などのインフラ整備の印象があるので、適切な表現を検討する。</p>
<p>【施策の課題】 高齢化等により自治会活動等も難しくなりつつあり、人的交流も少なく地域の間関係も希薄になりつつある。安心して地域で生活することができる社会基盤の整備と互いに助け合い支え合う相互扶助の精神の醸成が必要である。</p>		
<p>【施策の達成状況】 本事業の成果指標である『市と住民が一体となり協力したまちぐるみの福祉が出来ていると思う市民割合』については、平成22年度は未調査であるが、各種福祉施策の実施とともに、平成22年度を初年度とする「第2期江別市地域福祉計画」並びに「第2期地域福祉実践計画」等に基づき、ボランティア活動等への支援に取り組んできており、『市と住民が一体となり協力したまちぐるみの福祉が出来ていると思う市民割合』については、増加傾向にあり、地域全体で支え合う仕組みづくりは進展しているものと思われる。</p>	<p>地域福祉活動についてもっとアピールするためには、具体的にどんな活動をしているのか達成状況のところに記載した方が市民によりわかりやすくなる。</p>	<p>もう少しわかりやすく具体的に記載できるよう検討する。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p>【施策の目的】 市民・ボランティアなどによる地域福祉活動を活発に行い、地域全体で支えあう仕組みづくりを進めることで、誰もが住みなれた地域で安心して生活できるようにします。</p>	<p>「安心して生活できるようにします」とあるが、「安心して生活できる環境づくりを進める」というような表現の方が適切だと思う。</p>
<p>【施策の成果指標】 市と住民が一体となり協力したまちぐるみの福祉が出来ていると思う市民割合</p>	<p>自治会の中には婦人部や福祉部など色々なグループがあると思う。そこでの参加活動も地域の連帯を表すものとして指標になりうると思うので、可能であれば指標は一つだけでなく、より具体的に読みとれる指標を検討してほしい。</p>
<p>【意見・提言】</p>	<p>基本事業の位置づけがあいまいで似通っており、1つにまとめてしまっても良いと思えるようなものがある。</p>

政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

評価項目	評価
施策01 地域福祉の充実 基本事業01 福祉意識の向上	概ね適切

【参照：資料 - 17】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【事業の成果指標】 福祉ボランティアに参加している、または参加したいと考えている市民割合</p>	<p>「福祉ボランティアに参加している、または参加したいと考えている市民割合」と一つにまとめるのは適切ではない。実際に参加して定期的に活動している人と、参加したことは無いがいつかしてみたいと思っている人が一つになっている指標を、どのように活かせるのか疑問である。できれば別々の指標とすべきである。 「参加したい」と考えている人が減って、「参加している人」が徐々に増えることが数字として見えてくると、市民にとっても刺激になると思う。</p>	<p>この指標は市民アンケートを基にしているが、アンケートの質問項目が分かれている。指標を分けることは可能なので検討する。</p>

政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

評価項目	評価
施策01 地域福祉の充実 基本事業02 地域福祉活動の推進	概ね適切

【参照：資料 - 17】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
【事業の成果指標】 ①福祉ボランティア団体による支援先数 ②民生・児童委員の対応相談等の件数	「民生・児童委員の対応相談等の件数」について、後期目標を件数の増加としているが、これは件数が多い方が良いと判断すべきものなのか。民生・児童委員に限らず相談できる場所がある、相談できる人が近くにいる、ということであれば地域で支え合うということが言えると思うので、指標のとり方を変えなければならぬのではないか。	他に適切な指標があれば追加できないか、検討する。

政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

評価項目	評価
施策01 地域福祉の充実 基本事業03 人材の養成・確保	概ね適切

【参照：資料 - 18】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【事業の達成状況】 江別市の人口は減少したが、平成22年度を初年度とする「第2期江別市地域福祉計画」並びに「第2期地域福祉実践計画」等に基づき、ボランティア活動を支援し、その拡大に取り組んできた結果、ボランティア団体数、構成員数は大きく減少しなかった。今後も引き続き、ボランティア団体の活動を広く周知するとともに、参加しやすい体制を整え、ボランティアの養成を進めていく。</p>	<p>「ボランティア活動を支援」という言葉に、点訳・手話・朗読といった具体的内容を括弧書きで補足した方が、より詳しくどういう活動を支援しているのかわかりやすい。 実際に成果が上がっていることで、そこに市民が関わっているのであれば、それを記載した方が励みになるし、明確に読み取れるようになる。</p>	<p>記載について検討する。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p>【意見・提言】</p>	<p>ボランティアという言葉があちこちに出てくるが、安易に使い過ぎてるように思うので、ボランティアという言葉は使わずに、「社会貢献」という言葉で表現することで考え方を広める方が良いのではないかと。</p>
<p>【事業の成果指標】 ①ボランティア団体数 ②ボランティア団体構成員数</p>	<p>ボランティアとして養成した人たちが地域でどれだけの活動をして、それが地域福祉の充実につながっていることがわかる指標がつかれないか、検討してほしい。</p>